



沖縄県立総合教育センター  
所報



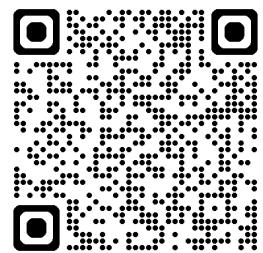
第92号 2025年9月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 金城正樹

〒904-2174

沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号



Web ページはこちらから

## 調査研究事業 調査研究統一テーマ 「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」

本総合教育センターでは、「本県の学校教育の諸課題について調査研究を行い、それらの課題解決に向けた学校力、教師力の向上を図り、幼児児童生徒の『生きる力』の育成に資すること」を目的として調査研究を行い、毎年2月初旬に研究発表会を開催しております。この調査研究は、6班から選出されたメンバー17人でチームを編成して取り組む「プロジェクト研究」と、個人や共同で課題を設定して取り組む「個人・共同研究」があります。

昨年度から、統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」、プロジェクト研究テーマ『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実の下、調査研究に取り組み、研究の2年次となる今年度は『個別最適な学び』と『協働的な学び』の具体化を目指した授業デザインの実践を通して」をサブテーマとして授業実践を通じた研究を行います。各校種、各教科等の特質に応じた資質・能力の育成を図り、「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実を図っていけるように、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインを構想し、研究協力員の協力の下、下記の方針で調査研究を進めていきます。

### 【令和7年度プロジェクト研究 研究方針】

- (1) 研究理論は令和6年度プロジェクト研究をベースとし、再検討しながら加筆修正等を行う。
- (2) 小学校・中学校・高等学校に研究協力員を置いて実践していく。
- (3) 研究協力員が受け持つ学年・学級を研究検証授業対象とする。
- (4) 各教科等における「『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実」を見取るまでの授業を実践・例示する。
- (5) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えて、具体化を目指した授業を実践していく。
- (6) 個別最適な学びと協働的な学びの具体化を目指す上で、ICTの効果的な活用に取り組む。
- (7) 研究したことを本センターWeb内「教育情報共有システム」に登録し、関係教育機関に発信する。

また、今年度の「個人・共同研究」では県教育庁保健体育課と共同し取り組みます。内容は以下の通りです。令和8年2月6日に開催する「調査研究事業研究発表会」へのご参加をお待ちしております。

種別	研究テーマ
プロジェクト研究	「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実
共同研究	児童生徒の性に関する正しい理解と規範意識を育むための授業実践 —性に関する指導の手引き作成を通して—

## 教育講演会

調査研究事業の一環として、本県の今日的な教育課題解決へ向けて、今年度は2回の教育講演会を実施します。第1回は9月17日に文部科学省高等教育局長の合田哲雄氏による「デジタル化時代の公教育—子どもたちの学びの転換と『社会に開かれた教育課程』」を演題とするオンライン講演会(ライブ・オンデマンド配信)を開催しました。本総合教育センターにおける令和7年度調査研究統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」を通じた「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実について、学校教育活動に応用できる教科における授業づくり・評価、ICTの活用について、多くの示唆を得る機会となりました。

第2回は、上智大学総合人間科学部教育学科奈須正裕教授をお招きし、令和8年2月6日に開催します。詳細は、各学校に届くチラシまたは本総合教育センターWebページをご参照ください。多くのご参加をお待ちしております。

## 「教育支援センター」としてより充実した支援の場へ

令和7年4月1日より「沖縄県適応指導教室てるしの」の名称を「沖縄県教育支援センターてるしの」に変更しました。

本総合教育センターが「適応指導教室」から「教育支援センター」へと名称を変更した背景には、文部科学省による不登校支援の方針転換があります。平成15年に文科省から出された「不登校への対応のあり方について」の通知では、適応指導教室が生徒や保護者にとって身近な相談・指導の場となるよう、その名称を「教育支援センター」と併用することが示されました。これは施設の敷居を下げ、早期相談、早期指導につなげることを目的としています。さらに令和4年の「不登校に関する調査研究協力者会議報告書」では、「適応指導教室」という名称が持つ抵抗感を軽減し、より親しみやすい名称への変更を都道府県教育委員会に求めています。これを受け全国的に「教育支援センター」や各教育委員会で工夫した名称にするよう検討が求められ、文科省の調査でも令和4年度以降は「教育支援センター」の表記に一本化されています。令和5年に策定された「COCOLOプラン」では、「誰一人取り残されない学びの保障」を掲げ、不登校児童生徒への包括的な支援体制の構築が強調されています。このプランでも「適応指導教室」という名称は使用されず、「教育支援センター」に統一されていることから、今後の不登校支援の中心的な役割を担う施設として位置づけられていることが分かります。

沖縄県においても、こうした国の方針を踏まえ、より開かれた支援の場としての機能を強化するために名称変更が行われました。新たな「教育支援センター」は、これまで以上に子どもたちが安心して相談できる場として、また保護者や学校との連携を深める拠点として、地域に根ざした支援を目指して取り組んでいきます。



## 幼稚園・保育教諭の資質と幼児教育の質向上をめざして

沖縄県においては、教育公務員特例法に基づき、幼稚園教諭及び保育教諭に対する法定研修を実施しております。本研修は、幼稚園・幼保連携型認定こども園の初任教諭、初任者研修を修了した採用2年目の教諭、中堅教諭に対して、幼児教育における実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させることを目的としています。

本研修の対象は、公立幼稚園、公立幼保連携型認定こども園、公立幼稚園型認定こども園の教諭等に加え、公立保育所型認定こども園、私立幼稚園、私立認定こども園等の教諭等も希望により対象として受け入れています。

本センターにおいて、幼児教育理論を学ぶ講義や演習及び実施指導を受けるとともに、専門講師とのかかわりや受講者同士の交流を通して実践的指導力の向上へつなげます。また、令和5年度から新たな取り組みとして、初任者と中堅者を少人数のグループに分け、中堅者の公開保育を初任者が参観し、実践的な保育・教育を学ぶ研修を設定しています。公開保育終了後には続けて、保育リフレクションの実践に取り組む研修を実施し、教師の援助、環境構成の工夫、子どもの姿から見えた振り返り、気付きや疑問等を参加者全員で話し合います。受講者同士の情報や意見の交換機会が得られ、自身の保育観を深めより質の高い幼児教育を実践するための学びの場となります。受講者からは、「法定研修に参加し、他の先生方との交流を通じて、自身の保育観を深め、新たな視点やアイデアを得ることができた」、「じっくり保育・教育について学んだり、考えたりする貴重な時間を設けてもらったことで、今よりも更により良い保育・教育ができるよう精一杯努めていこうという気持ちが強くなった」、「幼児理解の大切さを改めて考えさせられた」等の意見が寄せられました。

今後も教員の資質向上を図り、幼児教育の質の向上へつながるよう研修内容の工夫・改善に取り組んでいきます。



研修の様子



初任・中堅者合同研修会の様子

## 小学校・特支小学部理科の先生方の授業実践力向上！ ～「理科自主講座（エネルギー・粒子・生命領域）」～

4月から6月にかけて小学校教員および特別支援学校小学部で理科を担当している教員対象の自主講座を実施しました。理科研修班には、物理・化学・生物・地学の4分野の主事が在籍しており、理科の見方・考え方、実験・実習、観察指導の方法など各分野における専門的見地からの授業づくり支援を行っています。

4月に第2分野（生命領域）、5月に第1分野（粒子領域）、6月に第1分野（エネルギー領域）について、各主事による専門的な見地からの講義やものづくりを実施しました。今後、9月に第2分野（地球領域）、12月に中学校技術の自主講座を予定しています。

### 参加者の感想

- ・6年生の学習の植物の水の吸い上げの学習がとてもわかりやすく、また日常生活で子どもたちが出会っている野菜等が実験に使われているので、理解が促されました。
- ・燃焼の三原則や、引火と発火について、なんとなく知識としてはあったが、専門的な説明や、実験が見られて大変よかったです。

### 令和7年度 実施予定

#### 小学校理科

4/11（金）生命領域

5/9（金）粒子領域

6/13（金）エネルギー領域

9/12（金）地球領域

#### 中学校技術

12/5（金）事例・実技研修

### 自主講座の様子



①生命領域



②粒子領域



③エネルギー領域

## 体験学習教室「親子星空教室」 ～天体ドームの大型望遠鏡で月や火星を観察～

理科研修班では小学4年生以上の親子を対象とした体験学習教室として「親子星空教室」を実施しています。親子星空教室は、夏季と冬季に2回ずつ行っています。夏季は7月4日（金）と5日（土）に開催しました。両日、親子10組の参加があり、時折雲が広がる天候でした。

プラネタリウム室で解説を聞きながら学習し、工作では夏の大三角をプラ板にしたキーホルダーや夏の星座が輝いて見えるランタンを作製しました。屋上での星座観察は、大型望遠鏡で上弦の月の様子（クレーター）や火星を観察し、小型望遠鏡を使っての星空観察、タブレットアプリを利用し、星座をイメージして楽しみました。今後も、充実した体験学習教室を計画していきます。詳細は各学校等を通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。



プラ板でキーホルダー作製



プラネタリウム室での講義



望遠鏡やアプリで観察

## 特別支援教育棟および所内の環境整備について ～KS (教育センター・スクールサポート) チームの取り組み～

令和7年度沖縄県教育委員会の取り組みで、障害者雇用を目的に総合教育センター特別支援教育棟を拠点として支援員2名、作業員3名(予定は6名)で作業チームが編成されました。業務としては、中部圏域の県立学校や教育センター所内の環境整備等を行っています。年度初めは業務に慣れることを目的に教育センター所内を中心に樹木の剪定や除草作業、不要物の運搬、高圧洗浄機を活用し路面のこけの除去などの環境整備を行っています。雨天時には室内の清掃作業、不要文書の処理作業など、所員がやりたくても手のつけられない“かゆいところに手が届く”取り組みが行われています。所員からは「今年は朝の清掃作業が軽減されてありがたい。」「樹木が剪定されて光がさすようになって明るくなった。」など「感謝」「賛辞」の言葉が聞こえてきます。特別支援教育棟の周辺においては、木々が整えられ風通しがよくなり、心地よい風が吹き抜けるようになりました。また、所員、研修員の朝の清掃活動が簡素化され負担軽減にも大きくつながっています。5月からは県立高校、県立特別支援学校に出向きトイレ掃除やグラウンドの樹木の伐採、不要物の運搬等学校のニーズに応じた活動に取り組んでいます。実際に作業に従事する作業員からは「昨年度まではPC処理の業務に従事していたが、今年は外で体を動かす仕事に携われて健康的。暑い中の作業なので大変だけど休憩と水分をしっかりとり楽しみながら働いている。」という声も聞かれています。環境整備を通して教職員の負担軽減を図るとともに障害者雇用の促進につながる取組は今後の更なる展開が期待されます。



KSチームの作業の様子

## 総合教育センター分教室とのかかわり ～職業「名刺作成」を通して～

美咲特別支援学校総合教育センター分教室では、6月上旬から下旬にかけて職業的自立と社会参加を目指し、所内外で就業体験が行われました。生徒達はそれぞれの実態特性、これまでの経験等に応じて、各自が目標を持ち様々な企業や機関に出向き就業体験に取り組みました。この就業体験をきっかけに進路決定となることもあり、生徒にとってはとても大切な実習です。特に、所外の就業体験については、実際に公共交通機関を利用して事業所に通り、商品陳列や品出し、清掃業務など、事業所に応じた業務に取り組みました。体験を通して生徒達は、分からないことを尋ねたり、粘り強く作業に取り組んだりすることができました。これは生徒達にとって就業するにあたり必要とされる心構えやスキルを実際の現場で学び理解を深めることができる貴重な経験になりました。就業体験後は事業所からの評価を受けたり、自分自身の実習の様子を日誌や教師との対話を通して振り返ったりすることで日々の学校生活や卒業後の進路への意欲につながっています。

所内では職業の授業においてオフィスワーク班、介護・コミュニケーション班、エコロジーサービス班に分かれて作業に取り組んでいます。オフィスワーク班では、名刺作成、事務的な軽作業などの取り組みが行われています。名刺作成においては、レイアウト、文字のフォントやローマ字表記の有無、イラストや図柄の有無の確認などを一つ一つ所員と確認しながらメモを取っていました。時々、対価の桁を間違えたり、納入日を間違えたりすることもありましたが、ミスを認め“ミスをしないために何をすべきか”という視点で引率の教師とやりとりを行う姿が見られ、教育的なかかわりの一端を垣間見ることができました。これらの取り組みは、所員にとっても生徒の学びに触れたり成長を知ったりする良い機会となっています。



総合教育センター分教室の生徒と所員のかかわり

## 栄養成分測定装置「カロリーアンサー」を活用した授業実践 ～地域資源を活用した商品開発を目指して～

産業教育班分析システム研究室では、専門高校の生徒たちが取り組む商品開発や6次産業化に関する学習を支援するため、食品加工機器の導入を進めてきました。中でも、栄養成分測定装置「カロリーアンサー」は、加工食品などに義務表示されている熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、そしてナトリウム（食塩相当量）を短時間で測定できるため、開発した製品に「推定値」を表示することが可能となり、これまで課題となっていた予算や時間の問題を解決することができます。

このようなカロリーアンサーを活用して、農業高校では商品開発の事例も増えてきています。例えば、昨年度は北部農林高等学校食品科学科が伊平屋村漁業協同組合と協力し、モズクを使った「水雲油味噌」を2024年12月に商品化しました。商品化された「水雲油味噌」は、即売会などの各種イベントで販売されたほか、名護市の子ども食堂でも提供されました。この活動では栄養成分表示を生徒自身が完成させたことで、その後の販売活動に至るまでの学習過程を円滑に進めることができました。

このように、産業教育班分析システム研究室は、生徒たちの「つくりたい」という想いを支援するとともに、今後は多様な校種の生徒実習や教職員研修などの場面でも、加工機器の活用をさらに推進していく予定です。



生徒開発の「水雲油味噌」



推測値の活用



栄養成分測定装置「カロリーアンサー」

## 産業教育班 共同研究 ～産業教育における授業改善のための校内研修の工夫～

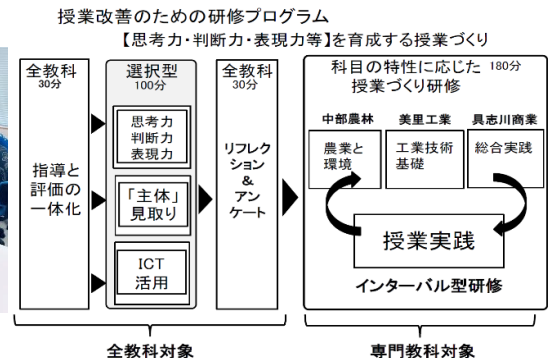
本総合教育センター産業教育班では、令和7年度より、「産業教育における授業改善のための校内研修の工夫」をテーマとして共同研究に取り組んでいます。これまでの本班における共同研究の積み重ねは、農工商連携・模擬会社による体験実習に活かされ、生徒のキャリア教育の充実に貢献しています。また、本班で実施する職員向けの研修は、教職員の専門的な知識・技術の向上に大きく寄与してきたところです。今年度は本班の施設活用による生徒実習と教職員研修(知識・技術)を継続しつつ、各学校における授業改善に焦点を絞り取り組んでいきます。共同研究のプログラムの内容は下記のとおりとなっており、全教科対象と専門教科対象に分けて実施すること、授業づくりと授業実践がインターバルで実施すること、各学校の研修では、全班員が教科の枠を超えて指導・助言にあたることに特徴があります。また、本研究を進める過程において、本班では、毎週の「勉強会」を行い、「主事の学び」は「教職員の学び」という「学びの相似形」を意識して取り組んでおり、最終的には、各学科の自走化につながることを期待しています。



授業改善のための研修会(全教科)



授業改善のための研修会(選択型)



## 令和 7 年度 小中学校教職員対象 I C T 研修について

今年度、I T 教育班で開催する小中学校教職員対象「I C T 教育研修」についてご案内いたします。下記のとおり、各種研修を実施いたします。各研修では、受講者が主体となって学べるスタイルを取り入れており、互いの学び合いを通して、現場での課題を共有し、意見を交わす機会を大切にしています。また、昨年度に引き続き、今年度も小学校教員及び中学校技術分野担当教員（地区指定あり）を対象とした「プログラミング教育研修」を実施いたします。詳細につきましては研修開催日 2 か月前に実施要項等でご案内いたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

期日	研修名	研修概要	対象	
6/20(金)	校務の情報化講座 A	学校 D X にむけた校務の情報化の推進について	公立・小中 ※実施済み	
6/25(水)	校務の情報化講座 B			
6/27(金)	校務の情報化講座 C			
10/28(火)	授業における I C T 活用講座	小学校プログラミング教育 (プログラミング的思考を育成する授業づくり) ※学級担任対象	中頭地区 A	
10/29(水)		中学校プログラミング教育 (ビジュアルプログラミングソフトを活用した外部機器制御) ※中学校技術分野担当対象	中頭地区 B	
10/31(金)			宮古地区	
11/ 5(水)		中学校における I C T 活用講座	中学校プログラミング教育 (ビジュアルプログラミングソフトを活用した外部機器制御) ※中学校技術分野担当対象	那覇地区
11/ 7(金)				八重山地区
11/18(火)				国頭地区
11/21(金)				島尻地区
11/28(金)		中学校 I C T 教育講座	中学校における I C T 活用力の向上	公立・中
12/ 4(木)	小学校 I C T 教育講座	小学校における I C T 活用力の向上	公立・小	

## 「県立学校家族休暇制度」における I C T の役割 ～多様な学びを支えるツール～

現行学習指導要領の下、時代は令和へと移り、日本の学校教育の在り方は大きな転換期を迎えています。文部科学省が提唱する「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現することが強調され、子ども一人ひとりが主体的に学べる「多様な学び」の検討が進められています。そのような中、多様な学びを実現するための新しい取り組みとして注目されているのが「県立学校家族休暇制度」です。これは、平日に保護者と共に校外で体験や探究活動を行い、その経験を学びに結び付けることを目的としていて、教育の多様化を象徴する試みの一つといえます。

しかし、この制度では、学校から離れる時間が増えることによる学習進度の遅れを補う仕組みや、体験で得た学びの評価方法といった、学習の質をどう保障するのかという課題があります。さらに、制度を利用する児童生徒ごとに課題を作成し、評価する必要が生じるため、教員の業務負担増も懸念されます。こうした課題を解決する上で重要な役割を果たすのが I C T だと考えています。オンデマンド授業やクラウド型の学習支援システム、学習アプリや動画教材を活用すれば、休暇を終えた後に、自分のペースで授業を視聴したり、課題に取り組んだりすることができます。また、体験中に記録した写真や動画、感想をデジタルポートフォリオにまとめることで、旅行中の経験を具体的な学びの成果として評価しやすくなります。さらに、学級内で共有することで、協働的な学びへと発展させることも可能です。

「県立学校家族休暇制度」はまだ試行段階の取り組みですが、I C T を効果的に活用することで、学校教育と家庭・地域での体験をつなぎ、子どもたちの学びをより豊かで広がりのあるものへと発展させることが期待できます。I T 教育班では、夏期短期研修や I C T 活用講座などを通して、先生方の I C T 活用能力の向上を支援しています。今後も、教育の転換期においても、変革に対応できるスキルを身に付け、先生方が円滑に校務をこなすことができるよう、研修の充実に努めていきます。

## 令和7年度 前期・離島長期研修研究報告会

令和7年度前期・離島長期研修研究報告会が9月9日に本総合教育センターにて開催されました。長期研修員12名が各自のテーマに基づき、教育課題の解決に向けて熱意のある報告を行いました。この研究報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。この研究成果を教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。

### 生徒と共にさらなる高みへ

教科研修班 県立宜野湾高等学校 教諭 池宮 研志



「理論なき実践は盲目である」一入所式で頂いたこの言葉が胸に刺さり、私は「ウチアタイ」し自らの授業が理論に乏しく教鞭を取っていたことを深く省みました。本長期研修で「理論」を研究し仲間の検証授業を参観する中で、教師が楽しむ姿こそが生徒の学びを豊かにすると実感しました。理論は、現場で生徒の学びに向かう力を育む後ろ盾となるはずです。金城所長、上原班長、松千主任、晴美主事、宮平主事、各主事の皆様、そして支えてくれた研修員の仲間や勤務校に心から感謝いたします。学校現場に戻った際、本研修で研究したNIEを手段とした学びに向かう力の育成を実践します。そして、生徒が自立した社会の創り手となるよう支援し、生徒と共に学び続けます。

### みんなと一緒に、教育を楽しみたい

教育経営班 浦添市立仲西中学校 教諭 久我 秀徳



現在の教育現場において、人員不足という課題のある中、1年長期インターバル研修を受けさせて頂き、関係する全ての皆様に感謝申し上げます。この貴重な時間を使い、生涯を通して「どんな仕事でもやりがいを見つける」ことができ、「ウェルビーイングを向上」させるための、1つの方法論として、「余暇を大切にしたい、スケジュール帳の使い方」や「根本的な問題解決策の探究」を研究・提案させて頂きました。心身ともに健康な日々を維持し、断片的であっても、様々な努力を積み上げていくことが、多面的・多角的な経験(キャリア)となり、多様性を求められる社会で「生きる力」に繋がります。子供たちの明るい未来のために、沖縄県のキャリア教育のスペシャリストになるべく今後も精進し、教育現場で働くみんなと一緒に教育を楽しみ、学んだことを還元していきたいと考えております。

### 実り多き研修、出逢いに感謝

特別支援教育班 糸満市立高嶺小学校 教諭 中村 百代



共に学ぶ研修員は多様な校種の出身でしたが、互いに語り合う中で多くの新しい発見や気づきを得ることができました。センター所長をはじめ、班長や主任、主事の皆様には一人一人の研究に寄り添った助言やご指導をいただきありがとうございます。また、私自身の研究に何度も話し合いを重ねてアドバイスをくださった担当主事には本当に感謝しております。この研修で学んだことを現場に戻り、他の職員へ還元できるようにしていきます。半年間という短い期間でしたが、実り多い研修とたくさんの素敵な出逢いに感謝いたします。ありがとうございました。